**２０２２年春の拡大月間**

**総 括（案）**

後継者の出番づくり（包丁研ぎ講習）

日曜訪問行動（関前分会）



日曜行動インボイス学習（牟礼北野分会）

活動者会議の作戦会議（吉祥寺分会）

【と　き】２０２２年７月６日（水）

【ところ】三鷹市公会堂さんさん館

第８回大会・第３回執行委員会

１、はじめに

春の月間スタート前より、１月３１日からスタートした事業復活支援金の相談が相次いでいることからも、仲間の仕事と暮らしにコロナ禍の影響が未だに及んでいることは確実でした。この影響から「組合費等が払えず滞納してしまう人、脱退を考えてしまう人」「収入が減少したり途絶えてしまうことで切羽詰まってしまい間違った選択をしてしまう人」など、決してその様な仲間を三鷹武蔵野支部から出してはいけないと確認し合い、相談できずにいる隠れた仲間を積極的に拾い上げていこうと「誰ひとり仲間を残さない」を継続的なスローガンとして掲げました。また、こうした相談活動を組合員はもちろん未組織者まで広げていき、より強固な信頼関係の構築と基礎組織（群・分会）の活性化へとつなげ、この組織力がおのずと対象者確保と組織拡大へと結びつく運動体をつくり上げていくことも目指し行動を繰り広げていきました。

結果、拡大累計８５人と『支部独自目標』には届きませんでしたが『４％基準目標』を超過で達成させることが出来ました。この月間にご尽力いただいた活動者の皆さんとご理解・ご協力いただいたご組合員・家族の皆さんに心より感謝を申し上げます。

２、取りくみ結果について

（１）目標と到達について

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 分会 | ４％  基準目標 | 独自目標 | 成果累計 | ４％残 | 独自残 | 年間  6.5％残 |
| 井の頭 | **２** | ２ |  | ２ | ２ | ２ |
| 牟礼北野 | **１０** | 10 | **６** | ４ | ４ | ４ |
| 新川中原 | **９** | ９ | ４ | ５ | ５ | ５ |
| 連　雀 | **★　９** | **★10** | １０ | **-１** | **０** | **０** |
| 深大寺 | **★　４** | **★ ５** | ７ | **-３** | **-２** | **-２** |
| 大　沢 | **★　５** | **★ ５** | ５ | **０** | **０** | ２ |
| 吉祥寺 | **★　５** | **★ ５** | ５ | **０** | **０** | **-７** |
| 武蔵野中央 | **★１２** | **★12** | １３ | **-１** | **-１** | ５ |
| 関　前 | **★　５** | **★ ５** | ６ | **-１** | **-１** | １ |
| 境 | **★　２** | **★ ２** | ６ | **-４** | **-４** | **-２** |
| 境南町 | **２** | ２ |  | ２ | ２ | ４ |
| 直属・事業所 | **★１９** | **★20** | ２３ | **-４** | **-３** | １ |
| **合計** | **★８４** | **８７** | ８５ | **-１** | **２** | **１３** |

１）各達成分会と成果の特徴

■４％基準目標・・・・・・・・・ ８４人（2021年：８５人　2019年：　９２人）

■支部目標・・・・・・・・・・・ ８７人（2021年：９４人　2019年：１１９人）

■拡大成果・・・・・・・・・・・ ８５人（2021年：９７人　2019年：　９４人）

■４％基準達成・・・・・・７分会：連雀、深大寺、大沢、吉祥寺、武蔵野中央、関前、境

（2021年：８分会　2019年：８分会）

■独自目標達成・・・・・・７分会：連雀、深大寺、大沢、吉祥寺、武蔵野中央、関前、境

（2021年：７分会　2019年：７分会）

■年間６.５％到達・・・・ ４分会：連雀、深大寺、吉祥寺、境

（2021年：７分会　2019年：５分会）

■年間実増・・・・・・・・５分会：深大寺、大沢、吉祥寺、関前、境

（2021年：４分会　2019年：５分会）

■２ケタ拡大・・・・・・・３分会：連雀、武蔵野中央、直属

（2021年：５分会　2019年：５分会）

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 雇用 | 労災保険 | 仲間の紹介 | 健康診断 | ＣＣＵＳ登録 |
| ３２ | １０ | １６ | １２ | １ |
| ３７.６％ | １１.７％ | １８.８％ | １４.１％ | １.１％ |
| 講習の受講 | 税金相談 | 土建国保 | 滞納精算 | 合計 |
| ７ | ２ | ４ | １ | ８５ |
| ８.２％ | ２.３％ | ４.７％ | １.１％ |

２）各会員拡大の到達

●青年部・・・・・・・・・・・・【目標：　６人⇒**成果：☆１０人**】

●女性の会・・・・・・・・・・・【目標：１０人⇒**成果：☆１１人**】

●けやきグリーンクラブ・・・・・【目標：１１人⇒**成果：☆１１人**】

（２）行動について

■延べ行動参加者・・・・５５６人（2021年：４３８人　2019年：７１４人）

■組合員訪問・・・・・・２５８件（2021年：２５２件　2019年：３８３件）

■未加入者訪問・・・・・　４６件（2021年：　５６件　2019年：　　９件）

（３）拡大推進委員会について

■構成＝支部四役・常任＋分会組織部長＋書記局

■オルグ体制＝支部四役・常任で所属分会に配置、その他書記局を配置

■推進委員会の開催＝２回

【第１回：４月２６日（火）】

前半戦の取りくみ状況を確認するとともに、後半戦の飛躍を目指して「見えない仲間の相談事を拾い上げていく」ことと「後継者世代とのつながりと出番づくり」に向けた中間決起や日曜行動などの計画について確認。

【第２回：５月１８日（水）】

拡大についてはこの時点で既に３分会が基準目標を達成しているが、全体の到達がなかなか見えない状況。「４％目標」「独自目標」「年間6.5％到達」など、各分会の到達状況により異なる課題をそれぞれが追求していくことで、全体の底上げを行なっていくことを意思統一。

あわせて分会・群の課題克服に向けた具体的な計画と実践で、基礎組織の活性化を一歩でも半歩でも前進させていくことを確認。

３、取りくみの特徴について

（１）コロナ対策を徹底のうえ仲間へ接触する工夫

　支部ではこれまで、コロナ禍であっても仲間の知恵と工夫により「できること」を駆使して運動を止めることなく月間の成功へと導いてきました。『拡大かわら版』には、各分会が作り上げてきた実践例「できること」を常に掲げ、支部全体の動きを大きくつくり上げていくことを目指していきました。

①通常の組合員訪問でも間隔をあけて対話ができます。

②対面することができなくてもインターホン越しの対話ができます。

③夜間の訪問を嫌がる場合でも日曜行動や昼間の独自行動で訪問先の対応が和らぎます。

④事前に組みと訪問先を計画することでセンター内での密を避けることができます。

⑤訪問が難しい場合でも、協力し合って電話の対話行動ができます。

⑥各群に訪問グッズを渡し「１人でも良いので未加入者に当たってもらう」協力を依頼することで協力幅を広げることができます。≪※後日、状況を集約することが大切です≫

⑦センターに結集できない仲間に訪問グッズを渡し、個別で当たってもらった内容を後日集約することで分会の動きを広げることができます。

⑧仲間の知恵と工夫を結集させることで困難を克服することができます。

（２）コロナ禍の教訓を活かした相談体制の確立

　コロナ禍２年の経験を経てあらためて確認された組織の強化・確立と仲間増やしは表裏一体であることの教訓をもとに、仕事と暮らしに関わる継続的な相談活動やその土台となる運動体（基礎組織）の活性化を目指し仲間との対話量を積み重ねていきました。

　その前段では、支部機関紙「みちしるべ」や「群会議の話題」、「ＬＩＮＥ」などを通じて仲間の困り事や相談の掘り起しを行なっていきました。これを受け、分会では毎月の機関会議や統一行動日の訪問や電話かけなどによる対話を進め、支部では日常的な窓口対応とあわせて労働保険年度更新手続きや集団健診での待ち時間を利用しながら丁寧な聞き取りを行ない、仲間の要求に合わせて対応を進めていきました。こうした取りくみの中から対象者発掘・組合加入へとつながりました。

①事業復活支援金や雇用調整助成金などの申請手続き支援

②インボイス制度の周知と学習会計画の案内

③石綿関連法改正の周知と必要に応じた講習会の案内

④ＣＣＵＳ（建設キャリアアップシステム）の周知と登録促進．．．など。

（３）基礎組織の活性化と分会活動の担い手確保を目指して

１）後継者世代とのつながりと出番づくり

　この２年間、活動に制限が加えられるなかで薄れつつある仲間とのつながりを何とかして取り戻そうという思いから、分会が主体性を持った企画づくりが見られました。とりわけ、後継者対策を重点とした具体的な行動が複数の分会で見られました。

**●加入歴の浅い組合員と後継者世代の組合員が中心となって、それぞれの周りに存在する未加入者を当たり、後日分会が行動集約を行なう。（井の頭）**

**●分会機関会議や統一行動などでの呼びかけにより、中間決起（インボイス学習会）や住宅デーに後継者世代が複数参加。（牟礼北野）**

**●６月の住宅デーには取りくめなかったが、今後取りくんだ際の協力に向けて包丁研ぎ講習会に新たな後継者世代が参加。（大沢）**

**●中間決起（交流会）への呼びかけにより加入歴の浅い仲間が参加。これをキッカケに住宅デーへの参加にも結びついた。（吉祥寺）**

**●６月実施でバスレクを企画。後継者世代に特化して訪問・電話かけを行ない宣伝。新たな参加者を確保することは出来なかったが、後継者世代との対話とつながりを築いた。**

**（武蔵野中央）**

**●分会機関会議や統一行動などでの呼びかけにより、２分会合同で実施した住宅デーに後継者世代が複数参加。（境・境南町）**

２）基礎組織（群）の課題克服に向けて

**●役員不在となった群の立て直しに、当該群の所属ではない分会役員・活動者みんなが関り、分会機関会議や訪問行動などで丁寧に対話を積み重ねてきた結果、新たな協力者を選出することが出来た。（新川中原）**

**●役員不在となった群の新たな協力者を探すため、分会役員が当該群の仲間一人ひとりと対話を実施。未だ新役員選出までは至っていないが、現在分会長がその群をまとめながら継続的な働きかけを行なっています。（深大寺）**

４、今後の課題

（１）仲間との接触と対話数を増やすために

　多くの分会から聞かれる「なかなか本人と会えない」という状況については訪問のタイミングやアポを取るか否かなどにもよりますが、今回あげられた課題の中で「二度目の訪問が出来なかった」「もっと訪問件数を増やしたい」とする反省点がいくつかの分会から寄せられています。そのために克服しなければならない事として、武蔵野中央分会からもあげられている「活動者を増やす」という協力者増も含めた目標については組織内部の強化・確立の取りくみと並行して進めていかなければならない継続的な課題となりますが、前半戦に続いた「雨天」による行動数の減少については手立てが無いわけでもありません。昨年では電話かけでも「十分に対話が出来た」「対象者発掘につながった」などの経験も出されており、「雨天の日こそ自宅にいる」という考え方も出来ます。対面しての接触でなければ伝わりにくいのではないかという懸念もあることと思いますが、周知・宣伝の内容を明確にすることで相手への意識付けにはなり、後日の後追い訪問につなげることも出来ます。当面の方針作成にあたっては「雨天対策」の検討も必要です。

（２）仲間との接触数を増やすための準備やお膳立て

　仲間との接触数を増やすためには、活動参加者が「効率よく回れるための準備」や「前向きに行動に出られるお膳立て」が必要となります。例年に引き続き行動日に効率よく回れるよう、連雀分会では事前に訪問先と日程の調整を行ない、武蔵野中央分会では計画した分会レクに新たな仲間を呼び込もうと事前に後継者世代のピックアップを行ないました。また支部では全組合員に配布する群会議の話題に、月間が始まった旨のお知らせに「仲間が訪問するので快く迎えてください」とする一文を加え少しでも活動者が行動しやすい環境づくりを目指しました。

しかし具体的な事前準備については毎回一部の分会が行なうに留まっており、多くの分会に広げていくためにはオルグも加えた意思統一の充実が求められます。また仲間が訪問しやすい環境づくりについては群会議の話題での一文だけでなく、分会機関会議での各群に対する呼びかけやより多くの未結集者に伝わるお知らせ方法を検討していく必要があります。

（３）組合の魅力をどのようにして伝えるか

　現場や周りに存在する組合未加入者の人たちに接する機会が多いのはやはり組合員自身です。未加入の人たちの相談や要求事項に対し「組合に入ればこんな事が出来るよ」「それなら組合に相談するのが近道だよ」など即提案することで組合未加入者の興味をグッと引き寄せることが出来ます。また今後の協力体制づくりを考えるうえでも、組合に「入ってもらう」のではなく「入りたい」と思える環境づくりも大切です。

東京土建には全国最大の建設労働組合だからこそ出来る“魅力ある制度”や“仕事に必要な制度”があります。①組合員が東京土建を紹介 ⇒ ②未加入者が興味を持ち組合に相談 ⇒③書記・職員が制度の詳細を説明 ⇒ ④未加入者が確信し加入を決断　という流れをつくりあげていけるよう、「①」で組合員自身が「語れる」「魅力を伝える」ことが出来るような学習会の設定が求められます。

（４）訪問先の仲間から可能性を引き出す対話を目指して

　「産業課題の周知」「組織内の課題克服」「後継者の出番づくり」など様々な対話を重点に掲げ各分会の行動が繰り広げられました。その分会の課題に沿って対話の内容をチョイスした為か、対話の内容に片寄りが生じてしまったとの反省点も上げられています。どの話題についても上手くつなぎ合わせてまんべんなく聞き取ることが出来れば訪問先の仲間から自身が興味を示すものに沿った回答を引き出せるかもしれません。あらゆる可能性を広げていくためにも、複数の対話が出来る事前準備や打ち合わせなども大事となります。

（５）後継者世代とのつながり強化と維持に向けて

　取りくみの特徴では後継者対策に向けた行動を重点とする分会が複数見られた事があげられましたが、一方では担い手確保の課題が明確であるが「後継者対策には取りくまなかった」とする分会も見られました。取りくんで実際に参加や出番づくりにつなげた分会は相手からしっかりと参加の決断してもらう環境づくりが行なわれており確実な一歩を踏み出しています。「取りくんだが今回はうまく結びつかなかった」という分会については着手したことには自信を持ちながら、あとは「一方的な投げかけだけで終っていないか」「日常的な関係づくりは出来ていたのか」などを検証し次の取りくみへと切り替えていくことが重要です。中には「新たな参加にはつながったが呼びかけ自体は少なかった」と、もっと先を見据えたうえでの反省点をあげる分会もあります。今回の取りくみで参加や出番づくりへとつながった分会は確信を持つと同時に、このつながりを決して離さないこと、そしてもう一歩踏み出すための次なる計画と実践が必要です。

６、最後に

　東京土建の組織づくりは「組織拡大」と「組織強化・確立」の両輪で進めていかなければならないことはこれまでも確認をしてきたところです。今月間の方針については前段でも述べたとおり「目標に団結」を前提としながら「基礎組織（群）の活性化」「後継者世代とのつながり強化・出番づくり」を中心とする組織強化・確立の取りくみに比重を置き、分会組織の足腰を鍛え上げていくというものでした。

そうした意味で今月間では例年に比べてもやるべきことは明確でした。しかし自身の課題に向き合いその克服に向けて動き出した分会が具体的な一歩を踏み出すいっぽう、着手できなかった分会についてはオルグの関わり方を含めて意思統一の場を充実させていかなければならない課題を残しました。

また産業課題の周知については月間が終了した今も継続的に進めていかなければなりません。とりわけ石綿関連の法改正については事業者のみならず施主にも罰則が設けられていることからも地域から決して違反者を出さないためにも組合内外を問わず継続的に発信し続けなければなりません。

この月間では分会独自の中間決起の取りくみとして交流会を再開し、コロナ禍で薄れつつあった仲間とのつながり取り戻す分会の姿も見られました。ここに後継者対策を位置づけた分会は新たな参加者を獲得するなどの前進面も生み出しています。

このように「課題面」「前進面」と、月間を終えるごとに新たな発見や教訓が生まれます。総括はそこで出た教訓を次回に活かされなければ意味を成しません。総括のための総括で終わらないよう支部・分会では必ず月間が始まる前に確認をし、着実に前進していきます。